

なぜ高血圧が問題なのでしょうか

血圧が高くてもほとんど自覚症状はありません。しかし、家庭血圧(家庭で計測する血圧値)が135/85mmHg以上になると、脳卒中や心筋梗塞を引き起こす確率が2~3倍になるといわれています。これらはいずれも血管に障害の起こる病気で、高血圧がもっとも重要な危険因子といわれています。

気づいたときには生死に関わる病気が進行しているということがないように、定期的に健康診断、住民健診、職域健診などで血圧を測定したり、家庭でも血圧を定期的に測るようにしましょう。



このパンフレットは平成23年度厚生労働科学研究(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)研究費補助金で作成しました。

編集者一覧

- ・目時弘仁(東北大学大学院医学系研究科)
- ・荒田尚子(国立成育医療研究センター母性内科)
- ・三戸麻子(国立成育医療研究センター母性内科)
- ・関沢明彦(昭和大学医学部産婦人科)
- ・松岡 隆(昭和大学医学部産婦人科)
- ・今井 潤(東北大学大学院薬学研究科)
- ・北川道弘(国立成育医療研究センター)

このパンフレットに関してご意見がございましたら下記までお寄せください。
独立行政法人国立成育医療研究センター母性内科
Email: bouseinaika@ncchd.go.jp

妊娠中に「妊娠高血圧症候群」と診断されたあなたへ



産後も血圧に注意しましょう

「妊娠高血圧症候群」とは、妊娠20週以降に高血圧や蛋白尿が出現したり、もともとあった高血圧や蛋白尿が悪化する疾患のことで、出産後12週までには回復します。原因は様々で、まだわからない部分も多い病気です。症状や程度には個人差がありますが、すべてを含めて妊娠高血圧症候群と呼ばれています。

産後一旦は血圧が平常値に戻っても、数年を経た後に高血圧になる場合があります。出産5年後の高血圧有病率を見ると、妊娠時に正常血圧だった人の高血圧有病率は35人に1人だったのに対し、妊娠中に「妊娠高血圧症候群」と診断された人では5~6人に1人という結果が出ています*。産後も高血圧に注意をすることが大切です。

*平成23年度厚生労働科学研究費補助金「女性における生活習慣病戦略の確立—妊娠中のイベントにより生活習慣病ハイリスク群をいかに効果的に選定し予防するか」平成23年度総括・分担研究報告書より



